

■これまで事故しなかったからと言って、
これからも事故しないとは言い切れない

修正： 2021.06.01

投稿： 2021.06.01



●これまで事故しなかったからと言って、

これからも事故しないとは言い切れない①

私たちは、

「これまで～だったから、これからも～だろう」と、
これからもこれまで通りになるだろう、と考えて生きています。

これまで交通事故を起こしたことがないから、
これからも交通事故を起こすことはないだろう、と考えます。

これまでこの辺りでは災害は発生しなかったから、
これからもこの辺りでは災害は発生しないだろう、と考えます。

どちらも過去の経験を延長して未来を捉えています。
ただ、これはこれで当然のことで、
未来に対して何ら情報がない以上、
過去から予想するしかありません。

そしてもちろんのこと、未来がどうなるかは分かりません。
今まで事故を起こしたことがなくても、もしかすれば
明日には事故を起こしてしまうかもしれません。

と言うのも、運転手は老化しており、
昔と違って、反応速度が徐々に鈍ってきているからです。

ブレーキとアクセルを踏み間違えた、
というのは高齢者の犯すミスだと思われがちですが、
実は若年者もやっていることです。

ただ、若いと反応速度も速いので、
すぐにミスに気づいてブレーキを踏み直すことができます。しかし、
年を取るとそうした対応ができなくなり、事故を起こします。

「これまでは大丈夫だった」からと言って、

「これからも大丈夫だ」とは**言い切れない**のです。

(続)

//=====//

●これまで事故しなかったからと言って、 これからも事故しないとは言い切れない②

東日本大震災のとき、私は岡山県におりましたから、
まったく何の揺れも感じませんでした。
そのとき連絡を取り合っていた岩手県の方は、

「**凄い揺れた、死ぬかと思った…**（´□`。）」

と言っていたものですから、

「**またまた、何を大袈裟な…**（^▽^;)」

と軽く捉えていました。

その後、テレビを通して初めて東北の状況を知り、
映像で見て、本当に凄そうだと感じたものです。
「百聞は一見に如かず」というやつでしょうか。

その場に居合わせないと、なかなか
現場の感覚を共有することは難しいもので、やはり、
危機を実際に経験した人が
語り継いでいかなければならないものだな、と痛感しました。

「**事件は会議室で起きてるんじゃない！**

現場で起きてるんだ！」

という有名なセリフがありますが、

会議室には現場の緊迫した雰囲気は届きにくいもので、

「いかに現場の声を拾い上げるか」が

迅速で適切な判断につながる、と言えるでしょう。

しかし組織では、上に上がれば上がるほど、

情報はせんとく(選択と洗濯)されていきます。

立場や保身もあって、ネガティブな報告は避け、

ポジティブな情報だけを上げようとします(情報の選択)。

また、汚い表現で伝えることにも抵抗がありますので、

表現も徐々に美しいものになっていきます(情報の洗濯)。

いかに感覚を共有していくか、この点が、

いざという時ほど大切になると言えるでしょう。

(続)

//=====//

●これまで事故しなかったからと言って、

これからも事故しないとは言い切れない③

まさか今自分が住んでいる街が、

明日には消えてなくなる、

なんてことは想像できません。しかし、

それは実際に「起こり得ること」であり、

あり得ないことではありません。

2019 年 7 月、小惑星「2019 OK」が
地球にニアミス(異常接近)しました。

もし直撃であれば、該当地域からは避難しなければなりません。
しかし、発見されたのはニアミスのわずか 1 日前であったことから
余裕を持った対応はできず、こうしたことから話題に上がりました。

この「2019 OK」は、太陽を公転する
直径 57m~130m の小惑星で、もし直撃していれば、
「直径 1.5km~2km、深さ 500m」の
クレータができていたと推測されています。

直径 2km となると、**完全に一つの街が収まってしまいます。**
もし東京を直撃していれば、日本の中枢が完全に蒸発し、
致命的な影響を受けることは、想像に難しくありません。

放射能汚染こそしないものの、エネルギーだけで言えば、
戦略核兵器よりもよっぽど大きいわけですから、
人間にとっての最大の脅威は自然災害と言えましょう。

地球から 72,400km 離れたところを通過した
とありましたが、もしかすればこの先、
再来も起こり得ないとは言い切れません。
太陽の周囲を公転している以上、
またどこかでニアミスする可能性はあります。

と言うより、太陽の周辺を公転している小惑星は
「2019 OK」**だけではない**ので、恐竜が絶滅したときのような、
直径 10km 級の巨大隕石が衝突してくる可能性もゼロではありません。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)